



多文化共生シンポジウム開催

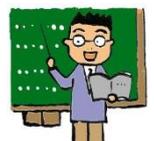


去る2月7日、日曜日に、草津市アマカホールにおいて、多文化共生シンポジウムが開催されました。オリーブからは、恩地代表がパネラーとして登壇され、生活向上のための日本語教室を運営する立場から他のパネラーと意見交換されました。レポート報告は、次ページをお読みください。



中川先生のへんてこ日本語

68



グローバル？

知り合いの外国人が来日したので、久しぶりに京都・金閣寺へ出かけた。京都市バスで、停留所のアナウンスが日本語、英語、韓国語、中国語でなされているのに驚いた。しかも有名寺院の手前では、その簡単な説明も日本語と英語でなされている。もともと合成音なので、発音はおかしいのだが、観光客には便利である。

駅やデパート、大型電気店などでは、少し前から外国語アナウンスが流れていたが、この市バスの取り組みに敬意を表したい。

また京都駅改札前のエスカレーターの手すりには、「手すりにおつかまりください」との注意が、日・英・韓・中で表示されるようになった。さすがに「外国人が一番訪れたい都市」だけのことはある。

とはいえ、こうした対応に一抹の寂しさを覚える。外国語を学ぶ（教える）大学に勤務しているせいか、アナウンスしているからそれを聞け、書いてあるからそれを見ろ式の対応では、日本の国際化は望めない。

グローバル化が叫ばれる昨今だが、真のグローバル化とは、表面だけのグローバルではなく、内面からのグローバルでなければならない。

外国語、日本語を学ぶ意義は、ただ言葉だけを学ぶのではなく、異文化（多文化）コミュニケーションを可能とする、言葉の裏に潜む何かを学ぶことにこそある。外国語ベタの日本人が外国語が話せるようになることは望ましいことだが、外国語カブレするのではなく、日本のよさを認識して伝えられる、それがグローバルではないか。

金閣寺境内で立ち寄った茶店で、「Welcome」と声をかけられた。「おこしやす」と言っただけだった。



京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

多文化共生シンポジウム

『あなたのとなりに外国人！つながろう、やさしい日本語で！！』に参加して

2/7（日）、多文化共生シンポジウムが、草津市アマカホールにて開催されました。このシンポジウムは、草津市国際交流協会が文化庁よりの助成を受けて行っている「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の集大成で、外国人に対する日本語教育の必要性を広く市民に知ってもらえるように企画したシンポジウムです。

副市長挨拶の後、第一部は桂一門の寄席でした。同じ町内に住む外国籍の方が、町内会長をされることになったという設定で、落語のお話を披露いただきましたが、最近街を歩いていても、外国籍の方に出会うことも増えましたので、あながちありえない話ではありません。

第二部は、多文化共生マネージャー全国協議会事務局長の時氏の基調講演でした。時氏は、中国籍の方で、「外国人から見た多文化共生 そして地域への思い」というテーマでお話いただきました。ご自身が、国際交流センターで働かれてきた中で感じたことや、今後の想いを、流暢な日本語で語られました。

その後、時氏の進行で、「外国人住民とともに地域で暮らす為に」をテーマに、パネルディスカッションがあり、オリーブからは、恩地代表がパネリストとして登壇されました。

かつて、オリーブで日本語を習っていた生徒代表として、トレーシー・チャベスさん、湖南省人権擁護課に勤務される、金子則江さん（ブラジル出身）もパネリストとして登壇され、それぞれの立場で、かつて経験され、感じられたことをお話されました。

特に強く印象に残ったのは、現在結婚されて、東京に住んでおられるトレーシーさんが、草津を第二の故郷としてとらえておられ、友人達に草津に行く時は、「草津に帰省する」と話されている、という言葉でした。日本語がわからず困っている外国籍の方に手を差し伸べるオリーブという団体に出会い、彼女はそこで日本語以外の勉強も習い、日本人と同じように、日本の中学・高校・大学に進学し、楽しくすごされ、草津市が第二の故郷と思えるぐらい、根をおろされたのではなかったでしょうか。

時氏のお話にもありましたが、お互いが認め合い、助け合うことが多文化共生であるならば、オリーブは20年前に既にそれを実践していたということです。

国籍問わず、同じ町内・同じ市内・同じ県内に住んでいて、何か困っていることがあれば、声をかけて助け合っていく、昭和の始めの日本に存在していた、相互扶助の考えが再び必要なのではないかと、シンポジウムに参加して感じました。

オリーブ先生たちによるリレーエッセイ⑧ 中須賀剛

「よろしくお願ひします」

1月末に栗東市に引っ越してきた中須賀（なかすか）と申します。オリーブ10周年記念の時に在籍していましたが、縁あってまたお世話になることになりました。人の移り変わりはありますが、外国の方に常に寄り添い、変わることなく日本語教室を維持されているオリーブに敬意を表します。当時は1級対策もしくはそれ以上の方が集まる上級クラスで、日本語を教えるだけでなく、その国の言葉や文化を教えてもらったり、誰が先生か分からない状態で楽しくやらせてもらってました。色々なタイミングもあり、青年海外協力隊の日本語教師として運良く合格できたこともあり、残念ながら退会したのが10年前になります。協力隊での派遣先は中国でした。教えるところは、日本人では知る人もほとんどいない甘肅省の省都である蘭州（らんしゅう）という町の大学でした。ここでの話しも色々ありますが、それはまた機会があればその時にでも。これからもよろしくお願ひします。



おめでとうございます！

日本語能力検定に果敢にチャレンジし、次の4名の方が見事合格されました！



お名前：アシャドラさん
母国：バングラディシュ
受験した級：N3
感想：「まあまあ」



お名前：メイディさん
母国：インドネシア
受験した級：N2
感想：「嬉しい！」
これからの目標「漢字の勉強をしたい。いつかは、自然や宇宙の本が読めるようになりたい
田中先生に N2 合格と言えて嬉しい！」



お名前：レミン トゥアットさん (左)
グエン ヴァン トアンさん (右)
母国：ベトナム
受験した級：N3
感想：「嬉しい！」
これからの目標
レさん：「留学生として、日本にまた戻ってきて、エンジンの勉強をしたい。日本語の勉強を続ける！」
グエンさん：「ベトナムにある日本の会社で仕事します。日本語の勉強を続ける！」

卒業の思い出 (生徒さん)

3月は卒業シーズンです。思い出多き学び舎を去るのは、寂しさと喜びが交差になった、なんとも複雑な気持ちになります。オリーブの生徒さん達は、学生時代にどんな卒業式を迎えられたのでしょうか？
ちょっと聞いてみました。

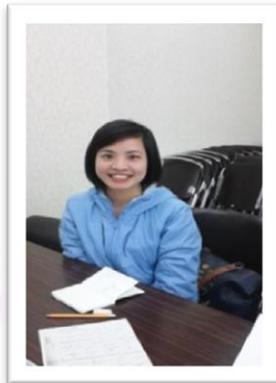


ガイ チ トクさん (ベトナム)
卒業式の思い出：皆でおめでとうと言った。パーティはなかった



チョウ ウンさん (韓国)
卒業式の思い出：大学が一番思い出深い。子供の頃から弁護士になりたいと、法学部に入り勉強した。忙しかった

グエン マイン フンさん (ベトナム)
卒業式の思い出：色々な活動があったがサボった。



卒業の思い出 (先生)



どの人がどの先生かわかりますか? ^v^

(答えは編集後記にあります)



先月の活動(2月)



日本語教室 2/6(M),13,20,27
 まちセン運営協議会全体会 (田中一)
 KIFA 文化庁シンポジウム (恩地)
 BNN 会議 2/13
 BNN スピーチ大会 2/28 (豊村・吉田・佐野・重松)

今月の活動予定(3月)



日本語教室 3/6(M)、13、27
 まちセン周年イベント・手伝い・参加 3/5 (田中一)
 KIFA 理事会 3/7(恩地)
 まちセン運営協議会 3/10(田中一)
 まちセン施設部会 3/17 (田中一・恩地)

●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数(2月)

	2/6	2/13	2/20	2/27
先生	21人	19人	20人	22人
生徒	24人	16人	16人	28人



会員の動き(2月)

〈入会〉2名

*服部たかしさん「山登りが好きな縄文人です」

*中川正幸さん「不束者ですが宜しくお願いします」

〈休会〉なし 〈退会〉なし

〈賛助会員〉なし

中村さんの季節折々 3月 (弥生)

象の鼻ぐるりとサトウキビつかむ広き背中に冬の雨降る

ケンジ

※オリーブのみなさん、こんにちは…寒かった冬もやっと終わって春ですね～

さて、生徒のみなさんの国にはどんな動物がいますか？

日本には「動物園」がありますが、行ったことはありますか？

京都や大阪に動物園がありますので、いつかオリーブのみなさんで

行きたいですね～

。 中村健治



編集後記:花粉症を発症しました。ハーブティを飲み続けたおかげで、昔に比べて随分マシになりましたが、やはりまだ鼻水や目のかゆみに悩まされます。

さて、先生の若き頃の写真ですが、回答です。

左から、内田さん・恩地さん・佐野さん・豊村さんです。恩地さんは、想像通り、若い頃から知的で魅力的な人だったんですね～

皆さん、わかりました？(SK)